

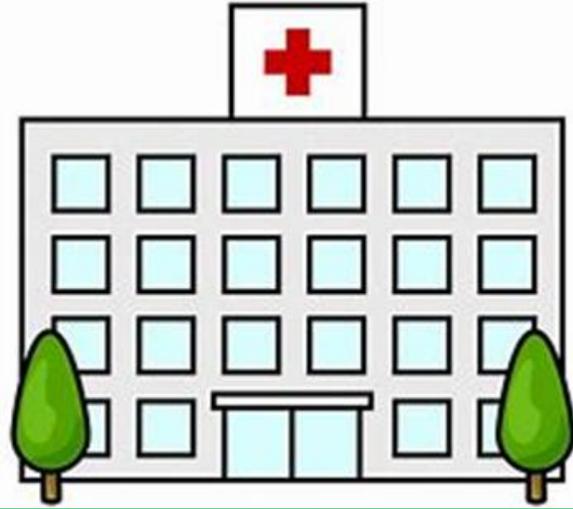
ICTを利用した 多職種連携

公立置賜長井病院
地域連携・患者支援室
椎名直子

公立置賜長井病院概要



公立置賜総合病院(急性期)



公立置賜長井病院(回復期)



自宅



療養型病院

一般病床50床
(地域包括ケア病床28床、一般病床22床)
人工透析室23床
外来10診療科
〈常勤医3名〉R5.9.1現在



施設

取り組みの背景と目的

- 2025年に向けて、地域包括ケアシステムの構築が進められてきた
- 当院では、回復期や軽度急性期の入院受入れや慢性疾患のフォロー、看取りに対応出来る医療体制が求められている
- 慢性疾患やターミナル期にある患者の、生活の質を保持しながら、増悪による再入院を防げるよう多職種で連携し、暮らしを支えていくことが重要である
- 置賜地区に、Oki-ネットでの電子カルテの情報共有システムはある
- かかりつけ医とケアマネジャー・訪問看護師が在宅療養中の患者情報を共有できるICTツールはあるが、当院は利用が進んでいない



- 退院した患者が住み慣れた地域で生活が維持できるよう、ICTを利用し、より効率的・効果的に多職種連携できないか？

取り組み内容

「ほっとネット」を利用した多職種での情報共有を実施

※「ほっとネット」とは、長井市西置賜郡医師会

地域在宅医療連携推進室で管理している情報共有ツール

医師と患者に関わるスタッフ(ケアマネジャー、看護師、薬剤師、管理栄養士等)が、パソコンやタブレットを使用した多職種連携システムを使い、情報共有が可能

→ 1つのチームとして動くことができる



その人が最後まで住み慣れた場所で暮らしていくために、
医療も介護も同じ方向を向きながら支えていく

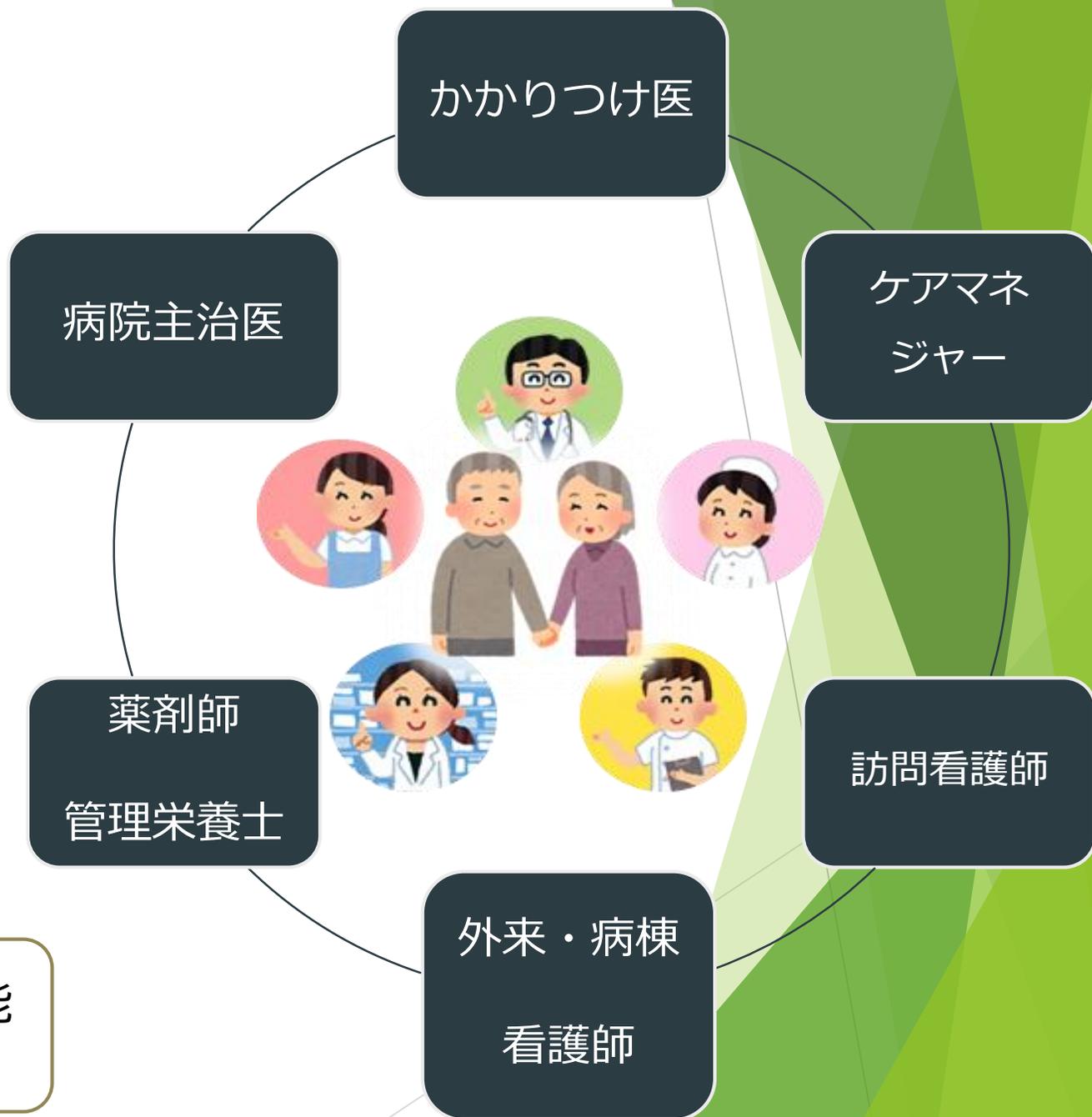
ほっとネットで 患者に関わる多職種が 情報共有

多職種による介入が必要と医師が判断
→本人・家族の同意を得て利用を申請

患者・家族の同意を得て、院内外スタッフが
ネットワークに参加

・基本情報は、氏名・年齢・住所・主治医を入力
他に、ADL記載欄と掲示板で構成される
・在宅での生活の様子や、褥瘡・創処置の経過、
緊急ではない相談事などを情報共有

自分の業務のすき間時間に閲覧し、入力が可能
※緊急時は電話連絡等利用



ほっとネットで情報共有（実際例）

A氏 73歳 女性

病名:慢性心不全

背景:夫と二人暮らし。生活保護受給している。入院中にADL低下したため介護保険申請し、認定は要介護4で担当ケアマネジャーが決まっている。夫は糖尿病で通院しているが、コンビニ弁当を食べることが多いなど自己の体調管理も難しく、介護協力は見込めない状況。

経過:入退院を繰り返していた。今回も心不全増悪で入院となる。

入院により、飲水制限や食事指導・体重管理を行い、症状軽快し退院許可となる。

- ◆ 退院に向けて、多職種でフォローしていくことが必要と判断。退院前に本人・家族へほっとネットについて説明を行い、同意を得て導入となる。
- ◆ 参加職種は、主治医、外来看護師、訪問看護師、ケアマネジャー、院内薬剤師、院内管理栄養士、地域連携・患者支援室が、本人・家族の同意を得て参加。
- ◆ 退院後、掲示板内で各職種とのやり取りが開始。訪問看護師・ケアマネジャーからは主に、食事状況・服薬状況・体重の推移・本人の思いや家族との関りなどが情報提供あり。
- ◆ 院内では、外来受診時の指導内容と受け止め方、管理栄養士や薬剤師からのアドバイスなどの書き込みなどが情報提供された。

ほっとネットで情報共有（掲示板より抜粋）



訪問看護師

本日訪問して来ましたので報告致します。労作時呼吸苦出現するも安静で軽減。昨夜は水分摂取を控え、夕食は冷奴、野菜サラダ、キムチ少し、ハンバーグ1/4、白飯(パックご飯)1/3召し上がられたそうです。

水分管理を最優先として頂き、食事を見るポイントとしては

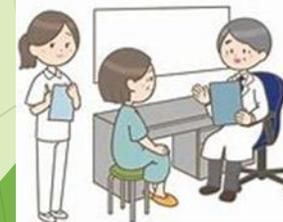
①3食食べていること②塩分に気をつけること

の2点かと思います。A氏の場合は買い物や食事の支度が十分にできないことが『欠食』や『単品食べ』に繋がるのではないかと懸念しています。次回外来診察時に声掛けいたします。よろしくお願いいたします。



管理栄養士

本日定期受診でした。胸部レントゲン、採血結果説明で問題ないと説明されています。日々の努力の賜物と褒められ、今後も飲水量、体重測定を頑張るよう言われています。酸素飽和度が90%以下続くようなら受診するよう説明しています。また、本人より納豆は食べて良いのか質問あり、食べて良いと返事しています。心不全手帳に、頓服内服時は印をつけるよう指導しているので確認よろしくお願いいたします。



外来看護師

ご連絡ありがとうございます。訪問時に頓服の内服状況や印のチェックしたいと思います。



訪問看護師

取り組みの成果・効果

- ◆ 電話やFAXによる業務の中断がなく、自分のペースで確認ができる。
- ◆ 在宅で関わるスタッフが、普段関わる機会の少ない、院内の管理栄養士や薬剤師と直接やり取りが可能。連携室を通さず連絡を取り合うことができ効率的。
- ◆ 外来看護師は、煩雑な診察時間帯ではなく、時間に余裕のある時に入力でき、病院での指導内容等、受診時の様子を情報提供できた。
- ◆ 院内スタッフが自宅での様子を知ることができ、外来受診しなくてもアドバイスや指導など必要な対応が出来た。
- ◆ 院内・在宅での患者への関りが可視化され、患者に関わるスタッフ全員が経過を共有できた。

今後の展望

- 今回「ほっとネット」のICT活用により、業務中断がなく、自分の空き時間に書き込みや閲覧ができ、仕事の効率があがった。
- 院内スタッフにおいては、在宅での様子を知り、アドバイスや指導をする機会もでき、切れ目のない医療にも繋がっている。
- しかし、自分のペースで情報を得られるが、緊急時対応はできないため、電話やFAX等の従来通りの情報共有方法も併用が必要。

退院した患者が住み慣れた地域で生活が維持できるためには、多職種連携が必要不可欠である。
より効率的・効果的に連携していくためにも、今後もICT活用を進めていきたい。

ご清聴ありがとうございました

